

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び

II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成

III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成

V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福岡県】

学校名【うきは市立江南小学校】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V （複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	第2学年（24名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（体育科） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 （ねらい）	・ パラリンピックの競技であるボッチャを通して、障がい者スポーツへの関心を高めることができるようにする。 ・ 投げる、転がすなどの動きで構成される運動遊びを通して、用具を操作する動きを身に付けることができるようにする。
5 取組内容	第2学年 体育科 体づくりの運動遊び領域 多様な動きをつくる運動遊び 単元「2の1オリンピック」 「2の1オリンピックを開こう」をめあてにし、ボッチャやモルックの競技に親しむ。 まず、3対3の4組で、ボッチャに取り組む。複数のチームと対戦する。その後、同様にモルックにも取り組む。 【子どもたちの活動の様子（ボッチャ）】 おねがいます。  白をねらえ 



作戦会議。次は、ここによせよう。



白玉に近いのは。赤玉？青玉？



最後の玉は、あの場所をねらったらいいよね。



やった。金メダルだ。



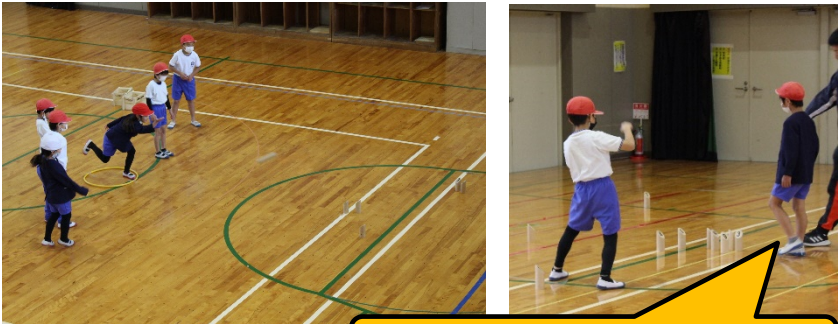
うれしいなあ。銅メダル。

【子どもたちの活動の様子（モルック）】

※ モルックの基本的な置き方



8番をねらってね。

	 今、11点だから、後19点だ。  今、27点だから、3点をねらって。
6 主な成果	○パラリンピックの競技であるボッチャを通して、障がい者スポーツへの関心を高めることができた。 ○投げる、転がすなどの動きで構成される運動遊びを通して、用具を操作する動きを身に付けることができた。また、興味・関心の高まりから運動に主体的に取り組んでいこうとする態度を育むことにつながった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	○優勝したら金メダル、準優勝だったら銀メダル、3位だったら銅メダルというオリンピック・パラリンピックの要素を取り入れたことで、より盛り上がりを見せたと考える。
8 主な課題等	●事前にボッチャのオリンピック競技を見せたが、実際に取り組んでいる方をGTで迎えると、更に意欲が高まったと考える。
9 来年度以降の実施予定	□オリンピック・パラリンピックという素材のよさを取り入れた他の実践にも取り組んでいきたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【福岡県】

学校名【うきは市立江南小学校】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V （複数選択可）
2 実施対象者 (学 年 ・ 人 数)	第2学年（24名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（道徳科） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 (ねらい)	・ うまくいかなくても何度も練習して跳べるようになった「わたし」の達成感を通して、困難から逃げ出さず、根気強く努力して、目標に向かって最後までやり抜こうとする心情を育てる。
5 取組内容	第2学年 道徳科 「めあてに むかって『なわとび』実践授業 A 希望と勇気、努力と強い意志 ○ 子どもたちの生活アンケートよりめあてを立てた。 自分のがんばりを見つけよう。 ○ すぐに縄を引っかけてしまう「わたし」の気持ち   くやしい。むりなのかな。 ※ 役割演技をして、教師がインタビューをし「わたし」の気持ちを考えさせた。 

○ 20回続けて跳べた「わたし」の気持ち



※ 気持ちを表現させた後、ペア交流を行った。



○ 自分の心の中に「がんばる心」を見つけてた



わたしは、百人一首をがんばっています。

○ 素根輝選手を紹介する。(三ばいどりよく)



※ 素根選手を見つめる子どもたち

	○ 学校長のお話。  校長先生の家の近くに素根輝選手の親戚がいます。だから、校長先生は、有名になる前から素根選手を知っていました。その親戚の方が言われていたことは、部活が終わり、道場に通り、家に帰っても遅くまで練習をしていたそうです。・・・・
	○ 今日の学習で ・わたしは、この時思いました。どりよくってだいじであきらめたらおわりということです。これからは、どりよくして7～9のだんをおぼえたいです。 ・ならいごとやべんきょうがとてもたいせつだとわかりました。これからもならいごとをがんばりたいです。百人一首大会に出て、金メダルをとりたいです。
6 主な成果	○うまくいかない場面の役割演技を通して、登場人物の気持ちを押し量り、その後のわたしの達成感を考えさせることで、困難から逃げ出さず、根気強く努力して、目標に向かって最後までやり抜こうとする心情を育てることができた。 ○児童にとって身近なところに住んでいる素根輝選手を紹介することを通して、困難から逃げ出さず、自分も頑張ろうとする気持ちを高めることにつながった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	○道徳科の内容に素根輝選手を関連づけることで、頑張ろうとする気持ちをより高めたこと。また、学校長が、素根選手の親戚を知っていることで、児童もより身近に感じる事ができた。
8 主な課題等	●学校長が素根輝選手の親戚を通じて学校に来てもらえないか尋ねたところ、それは実現しなかった。しかし、その親戚の方が素根輝選手について語ってもらい、ビデオレターで送ってもらったらよりよかったと考える。
9 来年度以降の実施予定	□今回、行った実践は、今後も継続可能なものなので、今回の課題を改善しながら、次年度以降も継続して実施していく予定である。